

九州農政局農業農村整備事業等事後評価技術検討会
第三者の意見（委員長素案）

【国営かんがい排水事業 曾於北部地区】

事業の実施により、畑地かんがい施設の整備がなされ、農業用水が安定的に供給され、農作物の適期に水利用されることで作物の単収増加や品質の向上が図られるとともに、防除や降灰除去等の農作業の効率化・省力化が図られている。こうしたことから、担い手農家への農地集積・規模拡大や、次世代への農地の保全・継承に貢献していることが認められる。

お茶は畑地かんがいを利用した防霜対策のほか、環境負荷の低い害虫防除技術が導入され、品質の確保とともに茶摘み番手が増加し、生産量の増加に繋がっており、ペットボトル飲料の需要増と相まって生産額が増加している。

また、焼酎用かんしょについては、地域の酒造業の需要増を背景とした契約栽培による作付拡大とともに、畑地かんがいがあることによって、降雨に依らず適期の定植など計画的な作付けが可能となり、安定的な原料確保を通じて地域の加工産業を下支えするとともに、関連産業の雇用創出に繋がるなど地域活性化にも寄与している。

更には、防火用水としての役割や、水源のダムにおける事前放流など流域治水の一翼を担うなど防災面での効果も見られる。

今後は、実施中の関連事業を計画的に推進するとともに、収益性の高い作物の導入と併せ、農作業の省力化に直結する散水器具の普及拡大を図ること等により、かんがい用水の更なる利用推進を図ることが期待される。

(561 文字)

国営かんがい排水事業「曾於北部地区」

取りまとめ案	委員意見
○事業の実施により、畑地かんがい施設の整備がなされ、農業用水が安定的に供給され、農作物の適期に水利用されることで作物の単収増加や品質の向上が図られるとともに、防除や降灰除去等の農作業の効率化・省力化が図られている。 ○こうしたことから、担い手農家への農地集積・規模拡大や、次世代への農地の保全・継承に貢献していることが認められる。 ○お茶は畑地かんがいを利用した防霜対策のほか、環境負荷の低い害虫防除技術が導入され、品質の確保とともに茶摘み番手が増加し、生産量の増加に繋がっており、ペットボトル飲料の需要増と相まって生産額が増加している。 ○また、焼酎用かんしょについては、地域の酒造業の需要増を背景とした契約栽培による作付拡大とともに、畑地かんがいがあることによって、降雨に依らず適期の定植など計画的な作付けが可能となり、安定的な原料確保を通じて地域の加工産業を下支えするとともに、関連産業の雇用創出に繋がるなど地域活性化にも寄与している。 ○更には、防火用水としての役割や、水源のダムにおける事前放流など流域治水の一翼を担うなど防災面での効果も見られる。 ○今後は、実施中の関連事業を計画的に推進するとともに、収益性の高い作物の導入と併せ、農作業の省力化に直結する散水器具の普及拡大を図ること等により、かんがい用水の更なる利用推進を図ることが期待される。	<古賀委員> ○生産額ではお茶が一番儲かっている。作付けはそうでもないが生産量は3倍に上がっている。 ○選択された作物がどう収益に繋がっているかを見やすいのがお茶と思われる。 ○畑かんの成果がお茶によく表れている。生産量増加が畑かんの成果であれば、<u>お茶の生産額増加や経営の安定に繋がるストーリー</u>ができる。 ○後継者が不在でも畑かんが整備されていることで次代の農家へ農地が継承・集約化され、農地保全が図られるなど畑地かんがいが地域資源となっていることが分かる。 ○お茶やかんしょなど適期に水利用されていることが品質保証になる。 ○焼酎用かんしょは加工業における雇用の確保という地域貢献も含めて少し大きな書きぶりの方が成果が見えやすく、後継者も含めていい成果が出ていますと強調されていいと思う。 ○散水器具などの助成制度など特段の配慮を含め、<u>どの程度の発言ならば良いのか</u>気になるが、様々な省力化の機械が導入しており、どの程度書き込まれるのか。 <齊藤委員> ○農地を集約していくには、<u>畑かんが必須である</u>というところを表現できないか。 ○経営体が減少する中で、畑地かんがいで大規模化が後押しされたのなら、<u>すごく効果があるのではない</u>か。 ○畑かんだけでなく、<u>ダムも防火用水も防災として貢献している</u>というところを総合評価に加えて欲しい。 ○もっと加工や業者とのコラボなどの形でも、<u>発展していけば雇用ももっと創出できる</u>と思う。 ○農家の6次産業化でなくとも、<u>加工業とコラボしています</u>という表現があると良い。 <豊委員> ○平均経営体の農地面積2倍増と個別作物の増加はという状況での値なのか。調査農家の平均としての1経営体当たりの<u>値であればいい</u>と思う。 ○降灰除去の作業時間が減る理由は具体的にはどういうことか示すこと。<u>畑かんによって効果が出てる</u>と思うが。 <能本委員> ○水が使えるようになって<u>単収が上がって、地域の産業にもいい影響を与えてる</u>。 ○焼酎は地域によって大きい産業と思うので、<u>原材料がきちんと揃うことは地域にとって重要であり、安定した生産量を維持することで、農業と加工業にとっても、それを下支えしているところが重要</u>と思う。 <榎井委員長> ○事業の効果としてみると、<u>農業生産性の向上や農業経営の安定に絡んでいること</u>としたい。 ○かんしょに対してはマイナスの意見。<u>かんしょは水をかけなくてもある程度収量は取れる</u>。 ○契約栽培と掛け合って面積は<u>すごく伸びているが、畑かんの効果かどうかは書いていない</u>。 ○芋焼酎の<u>人気が高まってきて作付面積が増え、地域活性化に繋がっているが、畑かんの効果として盛り込むかは少し考えない</u>といけない。 ○ただし、<u>適期に散水しないといけないので、計画的な時期にかん水がある</u>という意味であれば良いかと思う。 ○茶は霜害。散水氷結法が広まって使われてきた。これは<u>かん水の効果がある</u>ということで、この地域では出していいと思う。 ○効果として<u>かんしょに言及するならちょっと工夫が必要か</u>と思う。

九州農政局農業農村整備事業等事後評価技術検討会

第三者の意見（委員長素案）

【直轄海岸保全施設整備事業 福富地区】

事業の実施により、海岸保全施設の整備がなされ、高潮などによる背後地への浸水被害が防護され、住民の財産や農地が守られるとともに、既存の排水機場と相まって排水性の向上に繋がっており、こうした被害防止により、たまねぎ、れんこん等の県内有数の産地が維持され、その機能は十分に発揮されていると考えられる。

地区内は、野菜の産地形成や担い手農家への農地集積による経営規模拡大が進められるとともに、集落営農組織の統合や法人化による経営の効率化が図られている。

地区内に開設された「道の駅しろいし」では、品質の高いたまねぎ、れんこん等の直接販売や、農産物加工など6次産業化へ取り組む経営体が出品しており、同施設の集客や売上の増加を通じて地域活性化に繋がっているなど波及効果が認められる。

また、農家に嫁いだり、移住して農業を始めた女性からなる農業女子グループが作物生産や農産加工等の6次産業化に取り組むとともに、道の駅やマルシェでの出品販売などを通じて白石町農業の魅力をPRするなど、女性の活躍も見られる。

今後は、本事業によって整備された海岸保全施設について、県内でも新規就農者数が多い本地域をたまねぎ、れんこんなどの産地として将来にわたって発展させていく観点からも、適正な維持管理を行うことが重要である。

(542 文字)

直轄海岸保全施設整備事業「福富地区」

取りまとめ案	委員意見
○事業の実施により、海岸保全施設の整備がなされ、高潮などによる背後地への浸水被害が防護され、住民の財産や農地が守られるとともに、既存の排水機場と相まって排水性の向上に繋がっており、こうした被害防止により、たまねぎ、れんこん等を供給する県内有数の生産地が維持され、その機能は十分に発揮されていると考えられる。	<古賀委員> ○作物単価の低下と被害額との関係・関連性、海岸保全施設の改修によって<u>これだけ良いことがあったということがどう繋がるか。</u> ○どのように被害状況が算定されているか、<u>かなり減っているのは分かったけれど。</u> ○6次産業化への展開で「AGUMI Group」という、4人と少ないが農家に嫁いで来たり、農業を始めた、初めて白石町を知ったり、移住をされてる。行政とは関係なしに自発的に加工品を作ってる。 ○「女性の活躍」、特に今流行りの「農業女子」の地道な活躍があるというのは紹介して欲しい。 ○道の駅しろいしでの、<u>年間の売り上げは6億円と道の駅がたくさんある中で相当頑張ってる。</u>6次産業化への展開に関して、もう少し具体的な書き込みができればいいと思う。今後の展望の中でうまく書けないか。 ○白石町の新規就農者数が県全体に対し高い割合で書いてある。 ○やる気のある女性たち、女性の活躍、ここはプッシュしていいと思う。
○地区内は、野菜の産地形成や担い手農家への農地集積による経営規模拡大が進められるとともに、集落営農組織の統合や法人化による経営の効率化が図られている。	<齊藤委員> ○堤防事業と排水設備とが相まって被害が防げる。堤防より農地が低く、水が溜まりやすくても、排水する施設と堤防が一体となって被害が防げるという、<u>相まって効果を挙げているという説明があるといいと思う。</u> ○農業振興の課題として担い手の育成とか、被害は少なくなったかもしれないが、<u>人口や世帯数など全て減少しており、今後の課題としても総合評価の中にもちょっと加えるべきかと。</u>
○地区内に開設された「道の駅しろいし」では農作物直売への参加が増加し、質の高い商品販売や、たまねぎ、れんこん等の農産物加工など6次産業化へ取組む経営体が出品しており、地域のランドマークとして集客や売上が増加し、地域活性化に繋がっているなどの波及効果が認められる。	<豊委員> ○被害額の数値をどうやって出されたかを示して頂かないと評価ができない。 ○農産物被害額は便益を出すと、総便益のほうも結局変わってくると思う。<u>再度確認して算出した方がいい。</u>
○また、農家に嫁いだり、移住して農業を始められた農業女子グループでは、農作物生産や農産加工等の6次産業化に取組まれるとともに、道の駅やマルシェでの出品販売などを通じて白石町農業の魅力をPRするなど女性の活躍も見られる。	<能本委員> ○参考として排水機もありますといった情報を加えてもいい。 ○他の道の駅と比べて品ぞろえや種類が多くはないが、午後には完売になるものもあり、道の駅の一つ一つの産品の実力というか、品質が高いんだろうなと。そういうのに支えられていると思う。 ○道の駅への販売の方も増えてるということなので、それらを軸にしてもいいかなと思う。 ○アグミグループが移住者の方も巻き込んでやっているというところ、新規就農だけではなく移住者を。
○事業によって整備された海岸保全施設及び本事業によって創出された資産効果については、適正な維持管理を行うことが重要であり、加えて、県内でも新規就農者数が多い本地域でも、多くの経営体では後継者が不足しており、今後も経営体数の減少が見込まれる中、たまねぎ、れんこんなどの産地として地域農業を将来にわたって発展させていくとともに、次の時代を築く担い手を育成・確保することが重要である。	<初井委員長> ○この事業の大きな波及効果として何か記述できるようなものが欲しい。 ○事業概要のところで「優良農業地帯」と、<u>あえて優良という表現には根拠は何かあるのか。</u> ○何か特別にこの地域にあるのか検討願う。<u>町の総合計画や指針の中に優良農業地帯を形成していく上での記述があれば悪くはないと思う。</u>他では「有数」という表現だったらいいかもしれない。 ○総合評価の書き方、「潮風害が若干発生したが、越波による農地等への浸水被害は見られなかった」の「若干」は取った方がよい。 ○整備した施設は十分機能しているという、この結論はいいと思う。 ○潮風害は相当な被害ではないかという、聞き取りでそう思った。越波して海水が溜まることは恐らくなかったとは思う。